

2016年10月22日

上信越 巻機山南面 魚野川水系登川 米子沢

メンバー：L 倉澤、久保

沢登りを始めれば一度は耳にする米子沢。遡行自体は日帰りが可能だが、行き帰りの行程が長く足が向かなかった沢。これを本年の沢納めとすべく行ってきました。

22日（前夜発）桜坂駐車場 6：00 発～入渓 6：50～スダレ状の 15M 美瀑 8：00～ゴルジュ上部 8：55～（左俣）～避難小屋 10：45～巻機山最高地点 11：45～桜坂駐車場着 14：35

起点となる桜坂駐車場で前夜泊とするべく金晩発。4時間かけて日が変わる頃に桜坂へ着くがすでに数十台の車があり、皆、車中泊の様子。こちらこそそそくさと就寝。夜は秋の深まりを感じさせる気温でした。

5時起床、6時に発。同時に2パーティーも出発。幸い本日の一番手グループで沢に入ったようだ。序盤のゴーロ帯の奥で沢装備を整える。他のパーティーに追いつかれるが、ここは先に行ってもらいゴルジュ帯に入る前に追い抜いてしまおうと同行者とアイコンタクトを取る。結局、滑ノ沢出会い奥、多段大滝の高巻きまでに一番手に上がり、ゴルジュ帯を過ぎて上部の大ナメ上で大休止を取るまで、一番手で行くことが出来ました。

多段大滝の高巻きは、右岸に目印と明瞭な踏み跡。15Mのスダレ状の美瀑手前のミニゴルジュは同行者が先に行く。ここは右岸を高巻きする道もあるようだが傾斜が強くなると危険。水を浴びることになります。水線を行ったほうが良いでしょう。日影沢の入るゴルジュ内は右や左につたうバンドを利用する。高さがあるので慎重に。ゴルジュを抜けると大ナメ。青い空に向かってとは言えない空模様であったがスケールの大きいナメに行く。ここで甲羅干しの真似事をする余裕も出てくる。

大ナメで上部に人影が入るのがイヤだったのでここまで少し急いできたつもりだが、次々に現れる豊かな造形に目を奪われて足を止めることもしばしば。他のパーティーも同様にスピードが上がらないようだ。大ナメが終わった所で大休止とし、後続者に先に行ってもらい沢の余韻を楽しむ。右俣は植生保護のため進入禁止で、左俣を進むと進路が北東に曲がる所が避難小屋の水場で、ツメは5分のラクチン。10：45に遡行終了となる。

巻機山までピストンし井戸尾根を下山とするが、やけに体が疲れている。周囲の紅葉に励まされながら登りとなったらいやらしい登山道を下り、14：35に駐車場へと着き、家への帰路となりました。

米子沢は駐車場の注意書きにもありましたが、初心者同士の安易な入渓は控えるべきでしょう。数か所いやらしい所もありましたし、入渓者も多いので状況によっては大幅に時間が掛かります。先行者のスタンスが違う場合は同じように行けるとは限りません。会のリーダー達に日頃助言を頂いている事が良くわかります。沢自体は、紅葉もさることながら、大小様々な滝、大ナメと楽しませてくれる素晴らしい沢です。

余談ですが、この沢で46余の遡行に付き合ってくれた沢靴、下山や他の山で酷使した靴、擦り切れた靴下、ズボンにお別れをしました。名残惜しいですが今までありがとう。